達示　一九三四、一一、一五

全國農民組合総本部

統一問題について

藺安、カンバツ、風水害、大凶作、飢キン、臨時議会等と、実らぬ秋の斗争はたけなはである。総本部並に各联合会は全能力をあげて活動し、その組織と斗争はすばらしく発展しつゝある。（「土地と自由」と「総本部ニユース」をみよ）この秋にあたつて兵庫縣联の名に於て統一問題にかんする閑文書が撒布されたので、こゝに一言してをくことゝする。

いふ迄もなく、組合の大同団結は、つねに、喫緊である、この観念は誰じもの念頭から離れてはをらぬ、然るに、農民組合運動の現実の歩みは、久しきに亘つて、対立し、分裂してきた、なればこそ、これが統一への進展は、当面の運動の諸情勢、諸勢力関係に應じ、めんみつ、違算なき計算に於て、努力がなされねばならぬ、これを我が全農はなしつゝある、かの、新なる統一への一歩が、同時に新なる分裂への一歩を、惹起するやうな事態を最大限に避けねばならぬ。

昨今の諸條件は、單なる統一のお題目的文書によつて、即時実現への